

Funehiki High School News vol.96

◆高校野球全校応援

7月13日、全国高等学校野球選手権福島県大会2回戦があいづ球場で行われ、本校は会津農林高校と対戦しました。「チーム船引」の結束をさらに固めるべく、全校生徒、教職員が現地で応援しました。猛暑をものともせず、選手は全力でプレーし、応援席の生徒も勝利を信じて懸命に声援を送りました。延長15回、4時間を超える激闘の末、残念ながら8対9で敗れてしまいましたが、選手と応援する生徒が心を1つにして臨む姿は、まさに「チーム船引」を体現していました。



◆心の教育プログラム

6月19日、1年生を対象に「心の教育プログラム」を行いました。浜松医科大学の片桐正敏先生、弘前大学の安田小響先生、足立匡基先生の指導のもと、「自分のいいところ・いい行動」「気持ちを切り替える」「ストレス・マネジメント」について学びました。生徒たちも真剣に取り組み、グループ活動ではクラスの枠を超えて積極的にコミュニケーションをとる姿勢が見られました。



◆選手壮行会

7月3日、県大会出場選手壮行会が行われました。生徒会長の激励の言葉に続き、全国高等学校野球選手権福島県大会に出場する野球部、福島県総合体育大会に出場する女子バレーボール部、卓球部の代表が、大会に向けての意気込みを力強く述べました。



▲壇上で整列する出場選手



▲意気込みを述べる野球部主将

◆前期PTA奉仕作業

6月20日午前7時30分から約1時間、前期PTA奉仕作業が行われ、保護者、運動部の生徒と職員合わせて約90人が除草や石拾いなどをしました。後期は9月12日を予定しています。



分かり始める

Logan Philips

ローガン・フィリップスさん
(アメリカ合衆国
オハイオ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	26

日本へ来たことは、これまでの僕の人生で最も大きな、しかも興味深いことの1つです。アメリカを離れる時、日本へ行くことで自分がどれくらい成長するか、僕には予測できませんでした。でも、今では分かり始めています。この「日出ずる美しい国」には、僕を成長させてくれる確かなものがあることを。

日本に着いた時、僕は疲労と興奮でいっぱいでした。アドレナリンが心臓から脳へ流れ込むような、それはぼんやりとした、しかし決して忘れることのできない感覚です。僕は自分に、「僕のライフスタイルは、これから欧米から東洋のものに変わるのだ」と言い聞かせました。

まず僕は、先の生活の準備をしながらも、深刻にならないように気を付けました。この先どうなるのかまったく分かりませんでしたし、先のことは考えたくなかったのかもしれない。ですから、ほとんど何も知らないまま、2年8か月間の僕の故郷——田村市へ向かう車に乗っていたのです。

田村市へ向かう日は、驚くほど暑く、じめじめしていました。このままじゃ頭がどうにかなってしまうんじゃないか…そう思った時、目に飛び込んできたのは、夢にまで見た山々の景色でした。オハイオ州の平らな大地ではなく、起伏のある山々の峰でした。その瞬間、すでに日本を、田村を好きになっていたのでしょう。



僕にとって最も大きな課題は言葉でした。ひらがなの読み書きしか知らずにアメリカを離れた僕は、日本に来た途端、「日本語の海」に溺れ、漂流することになります。

船引中学校の初日は忘れることができません。その日には、吹奏楽部の演奏が行われる全校集会があり、僕の紹介とあいさつも予定されていました。いよいよ僕のあいさつの順番です。自己紹介の練習もしていなかった僕は、500人以上の生徒や教師の前に立っていることを自覚し、全身が震えました。出だしの言葉だけは「おはようございます」に決めていたのに、口から出たのは「ありがとうございます」でした。僕は頭が真っ白になってしまい、名前や出身地のことなどを言って、壇上から足早に降りました。いま思い返してみると、第一声が「ありがとう」というあいさつも、そんなに悪くないのでは、とも思いますが。

とにかく、異国で現地の言葉を知らない怖さを、僕は早々と学んだのです。そしてそのことで、僕に英語を教わる生徒の気持ち、つまり言葉が通じない不安を理解できるようになりました。僕は今、生徒が英語を話す時には、軽い空気になるよう努力しています。

日本は、自分が成長できるかどうかさえ分からない難問や刺激に満ちています。しかし、それに自ら取り組んでいく過程でこそ、自分のことが分かり始めるのではないのでしょうか。それは自分が成長していく時間なのです。

田村市での残りの2年間、どんなことがあるのでしょうか。わくわくしています。日本で生活をしている中で、僕は、日常生活の行動規範だけでなく、人生哲学まで学んでいるようです。僕を受け入れてくれた田村市の皆さんと生徒たちに感謝を。